



¡No pasarán!

2015年の安保法制反対の大きなうねりの中から市民と野党の共闘が本格化し、翌2016年の参院選で成果を上げた。野党統一候補を擁立した全国32の1人区では、11選挙区で議席を獲得。今回の衆院選も市民連合(安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合)を中心にした野党共闘で、多くの市民が準備してきた。

そこに「希望の党」だ。民進党の事実上合流の報道に、市民連合は9月29日、「立憲主義に反する安保法制を肯定する希望の党との共闘はありえない」との見解を発表。その3日前には当の民進党を含む野党4党に要請書を出したばかり。市民連合が10月1日に予定していた新宿での街頭宣伝は、急きよ中止となった。

市民が動く

他方、地方の動きは活発だ。市民連合みえは9月21日に街頭で「解散見

市民と野党の共闘、ふたたび

込みの)28日まで数日しかない。大切なのは三重から市民と野党の共闘を進めることだ」と訴え、民進党の希望の党への合流が報じられると声明を出し「市民連合みえの最重要目標の一つは違憲の安保法制の廃止。ここが一致できるかどうかを判断基準とし、市民と野党の共闘を終わらせたくないよう、努力しましょう」と呼びかけた。三重県内



新たに発足した「市民連合みえ4区」(10月1日)

では複数のグループが活動している。八王子では9月24日、憲法と民主主義を守る市民連合が設立され、キックオフ集会が八王子駅北口のマルベリーブリッジで開催された。メンバーは「安倍NO3000万署名」とチラシを配りながら、安倍・小池の2大ファシスト政党の危険性をリレートークで訴えた。今後は、各政党に公開質問状を出したり、市民連合結成のチラシを全戸配布する予定だ。

政党も動く

埼玉13区では、共産党が予定していた候補者をおろし、社民党の女性候補を推薦した。9月30日には共産党の街宣に彼女が登壇し、冒頭、これまで共産党と社民党だけでなく市民がともに共闘し、討論を積み重ねてきたことに触れた。そして「安倍自民党が小池新党かの選択肢しかないように言われているが、冗談じゃない。憲法を守り、戦争しない国を守り続ける。そして一人ひとりが人間らしく働き、暮らせる社会をめざす。その選択肢をぜひ国民に提示したいと思う」。

両党は、希望の党に合流しないメンバーとの共闘に前向きだ。枝野氏が進める新党との共闘も視野に入れる。市民の私たちも、これからが本番だ。



市民連合、野党と市民の共闘について会見(9月21日)



◀八王子市民連合もキックオフ(9月30日)▶



主張

9月28日、安倍総理は臨時国会を開いたが、1秒も審議しないまま冒頭解散に踏み切った。これまで野党4党が憲法53条に基づき臨時国会の開催及び審議を要求してきたが、閉会中審査でこまかし、この暴挙だ。

これは、安倍総理本人の森友・加計学園問題にはじまる数々の疑惑隠しに他ならない。野党共闘の力を握る民進党の求心力低下も解散を後押しした。北朝鮮のミサイル発射の恐怖をことさらに煽り、野党共闘

に否定的な前原氏が党首に就くやこれを好機と判断したのだろう。まさに「ナチスの手口」そのままではないか。

にわかに誕生した「希望の党」の存在が大きな波紋を呼んでいる。時間の経過とともに、その正体が明らかになってきた。党首となった小池都知事を含む多くの入党

私たちがファシストを「排除」する選挙に

者が日本会議に所属していること、安保法制・憲法改正に賛成であること。極めつけは民進党との「合流」にあたり、リベラル派を排除するという悪質な手法を取っていることだ。しかも小池氏は会見で「原発ゼロを目指す」と言っていたが、希望の党への入党条件にその文字はない。

ある意味、自民党よりたちが悪い。衆議院選挙で自公と希望、その他補選勢力が3分の2議席を取れば、間違いなく憲法改悪の道が待っている。これは憲法9条3項に自衛隊を明記し、集団的自衛権行使を事実的に合法化しようとするものであり、世界で戦争をする自衛隊(国防軍)を認めてしまうということだ。

多くの犠牲を払い、71年間守り続けた「平和憲法」を、こんな人たちに譲り渡すわけにいかない。ここで私たちの判断基準を再確認しよう。①平和憲法を守る。加憲も必要ない。②原発ゼロに。再稼働をさせない。そして重要なのは、女性の尊厳を大事にする政治家を選ぶことだ。各地で野党共闘を呼びかける市民連合、自由と民主主義を求める市民と広く強くつながり、勝ち抜こう。